



現) ②文字(平仮名の読み書き) ③算数(10までの数・数字の認識等)を柱とし、どの分野でも日本語で学びに向かう態度の育成をねらいとした。語彙を増やす工夫と正しい表現で話す力をつける事、名前を正しく書く練習、宿題の習慣づけも目標とした。

「集団指導」では、①児童には集団学習の姿勢づくり ②保護者には母語通訳者を介して日本の教育制度と特徴、家庭学習における親の役割、読み聞かせや母語の大切さ等の情報提供 ③親子一緒に「書き順」「助数詞」の学習、給食指導、持ち物の準備練習等を行い親子で入学準備を行うことを目的とした。

### 3.5 「大垣市」「協会」の役割

大垣市と協会のそれぞれの立場を活かし(表1)、①運営資金確保と実施運営が可能になり ②市教委、校長会、園長会との連絡が取り易く理解を得やすいというメリットが事業継続の基盤となった。

表1：実施機関の役割分担

大垣市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童調査及び決定</li> <li>・園長会に事業実施の説明</li> <li>・園との調整(語彙調査、受講案内及び指導日程の調整)</li> <li>・記録及び指導記録票を校長会に説明</li> <li>・学校及び市教委への指導記録票を送付</li> <li>・追跡調査実施のための学校への依頼</li> </ul>
協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査及び指導業務の実施</li> <li>・指導者の選定</li> <li>・指導教材の管理</li> <li>・市及び指導者との調整</li> <li>・通訳者等の配置</li> </ul>

## 4. プレスクール導入による変化と成果

### 4.1 子ども：保護者、園アンケート<sup>2)</sup>より

①「巡回指導」で正しい発音、表現を聞いて学び、自信を持って話す事が出来るようになり、友達との関わりも増えた ②新しい言葉を意識して覚えるようになり、分からない言葉の意味を聞くようになった ③勉強する姿勢が身に付いた等の変化が見られた。

### 4.2 保護者

集団指導でいろいろな情報を得る事によっ

て、日本の学校制度や考え方を理解し、積極的に学校に関わる姿勢、子どもへ寄り添う姿が見られるようになった。

### 4.3 在籍園：アンケート<sup>2)</sup>より

「巡回指導記録」を交換する事により、児童の日本語理解力が分かり、園の保育の中でも児童の言葉に関心をもって指導に活かせるようになった。

### 4.4 市教委と入学先小学校：追跡調査<sup>3)</sup>より

5月に市教委を通して入学先の小学校へ「指導記録票」と「個票」を提供することにより、日本語能力や言語環境について入学直後からの支援とつながった。また、学級担任との面談、授業参観の実施により、プレスクールの重要性が理解され、指導内容の意見交換がより良いものとなった。

## 5. 今後の課題

「大垣市」と「協会」が主体となり「市教委」の協力の元、子どもの日本語支援のスタートとして、プレスクールが効果を上げ、認知されつつある。

今後の課題として、①プレスクールの必要性と理解をさらに広めること、②多様な児童に合わせた指導内容の検討と関係機関との協力、③園の保育における「外国につながる子どもたち」への支援などが挙げられる。

## 注

1) 100問語いテスト(愛知県プレスクール実施マニュアル)

2) 平成26年度保護者向け、幼稚園・保育園向け実施後アンケート結果

3) 平成27年度就学前外国人児童日本語等指導事業 追跡調査報告(対象：平成26年度プレスクール参加児童)